

区民と区長のタウンミーティング概要

日 時	令和元年6月16日(日) 10時から12時
会 場	桃園区民活動センター 洋室2・3
テ ー マ	新しい基本構想について「子育て・教育」
出席者 区 民	計 29人
区 側	区長 企画部基本構想担当課長 子ども教育部子ども・教育政策課長 子ども教育部子育て支援課長
事務局	企画課職員3人、子ども・教育政策課職員1人
一 時 保 育	無
手 話 通 訳	無

テーマ「新しい基本構想について「子育て・教育」

区長あいさつ

現在、区では基本構想の改定に取り組んでおり、今日は、子育て・教育をテーマに開催する。子どもの虐待に関するニュースが出てきている。現在、23区は、児童相談所の設置を進めている。いくつかの区では来年度から設置が始まり、中野区はその後2021年の設置を予定している。そのため、現在、全国の自治体に職員を派遣し準備をしている。派遣先で職員は、実際の事例への対応を現場で学んでいる。中野区では、子育て先進区に向けた取組みを進めており、子育てをしている人が楽しい・過ごしやすい区は、全ての区民にとって住みよい区になると思って進めている。また、教育大綱についても、基本構想と合わせて変えていきたいと思っている。10年・20年後に社会状況も変わっていく中で、子どもたちが生きていくにはどういう教育をすればいいのか、そういったことを検討していきたい。子育て・教育と言っても、範囲が広く、色々な課題があると思うので、皆さんの普段考えていることを率直に聴かせて頂きたい。

各グループの発表概要

■子どもや子育て家庭の居場所について

- ・キッズ・プラザは、スペースが狭い。キッズ・プラザに子どもの居場所を集約せず、児童館等、多様な居場所を確保してほしい。
- ・キッズ・プラザは委託だが、区には管理者として十分に子どもや親のニーズに対応してほしい。
- ・児童館のように、多世代が交流できる場があると良い。
- ・児童館の役割について、地域を交えて再評価し、充実させてほしい。
- ・廃校になった学校や空き家、商店街の空きスペース等を活用して、子育て家庭の交流の場を増やしてほしい。
- ・中高生の居場所が必要だと思う。
- ・子どもが遊べる公園が少ない。
- ・学校の統廃合に伴い、地域開放型学校図書館を開設すると聞いたが、学校に色々な機能を詰め込むのではなく、子どもや親子が図書に親しむ場を推進するのであれば、司書が児童館等に出向く等、児童館等を充実すると良い。

■子育て支援について

- ・「子どもは宝」という観点で「子育て・教育」について基本構想に盛り込んでほしい。
- ・子どもの生活困難層ゼロを目指す旨、基本構想に盛り込んでほしい。
- ・子どもの虐待に関する相談にしっかり対応してほしい。
- ・町会・自治会の子ども会に、子どもを取り込めていない町会・自治会がある。
- ・地域のおせっかい力を駆使して、若者の自殺予防にも取り組んでほしい。
- ・社会に出てからすぐに奨学金の返済に追われる若者が多いので、支援が必要だと思う。
- ・子育てしている人もしていない人も関係なく、街全体で、子ども・子育てのことを考える機運が醸成されると良い。
- ・予算をかけずにアイデアでできることもたくさんあるが、予算をかけるべきところもあるので、メリハリのある予算の使い方をしてほしい。

■保育園・幼稚園について

- ・区立保育園に、地域の保育の質を担保する役割を担ってほしい。
- ・保育園が少ない。また、保育園の園庭が狭い。
- ・インクルーシブ教育を推進してほしい。私立幼稚園では、障害児の受入れが進んでいないので、そういう面からも区立幼稚園は大切だと思う。
- ・区立保育園から私立保育園に転換する際、子どもや保護者の心身の負担が大きいと思うので、区でしっかりとフォローしてほしい。

■学校・学校教育について

- ・区民は、区立学校の校則を知らないなので、周知するとともに、区民参加で作れると良い。
- ・通学路の安全を確保してほしい。
- ・非認知教育に力を入れてほしい。
- ・子どもが専門家から学べるような機会が提供できると良い。
- ・小・中学校の教員の労働が過酷だと聞いている。区として、教員の負担軽減を支援してほしい。

発表に対する区長のコメント

■子どもや子育て家庭の居場所について

- ・子どもの居場所は、キッズ・プラザではまかないきれいな面もある。学童クラブの待機児は課題となっている。キッズ・プラザは、学校の中にあるので安心という保護者の声も多い。高学年の子どもは体を動かすにくいのでキッズ・プラザに行きにくいとの声も聞いている。子どもの居場所は多様であるべきだと思っている。
- ・活動の場としての児童館は必要だと思っている。時代のニーズにそって児童館も変わっていく必要があると思っているので、再評価をしていく。
- ・地域開放型図書館については、今後改めて検討していきたい。
- ・中野区は小さい公園が多い。現在の公園は、禁止事項が多く、使われていないところも多い。そこで、例えば地域ごとに課題を共有して地域の事業に応じて公園を活用できるようなことを行っていきたい。
- ・子育て家庭の交流の場が必要だと思っている。

■子育て支援について

- ・子どもの貧困については、今年度中に、子育て家庭の実態調査を実施する予定であり、子育て世帯にどのような課題があるのか、区として把握していきたい。
- ・子どもの虐待に関する通告件数については、増加傾向にある。現在、都の児童相談所の職員も不足していると聞いている。区も児童相談所の設置に向け、しっかりとした体制をとれるようにしていきたい。
- ・子ども会の活性化については、区としても考えていきたい。
- ・地域のつながりが希薄になってきていると感じている。地縁組織やNPO等が互いに連携して、網の目を細かくして、子どもを見守っていく必要があると思っている。
- ・子育て先進区に向けて、メリハリをつけた取組みをしていきたい。

■保育園・幼稚園について

- ・地域の子育て世帯が増減した際の調整のために、区立保育園はある程度必要だと思っている。
- ・保育園の待機児解消に向け、保育園の増設に取り組んでいる。園庭が狭いのは課題だと思っているが、土地が確保しにくいというのが現状である。
- ・インクルーシブ教育は大切だと思っており、私立幼稚園も含めて適正化を図っていきたい。
- ・これまで区立保育園から私立保育園に転換した園について、子どもや保護者の心身のストレスが大きかったと聞いている。今後は、丁寧に対応していく。

■学校・学校教育について

- ・子どもが意見表明できる場は大切だと思っている。学校づくりに子どもが参加できると良いと思っている。
- ・通学路の安全は大切だと思っている。
- ・10・20年後の社会変化の中で、子どもたちは自分が得意なものや自分はこういう人間だという意識を持って育つことが必要だと思っている。そういった意識を教育委員会と共有していきたい。
- ・小・中学校業務を効率化し、教員の負担軽減を図っていきたい。